

宇部港 <Port of Ube>

■港格／重要港湾
■港湾管理者／山口県
■指定年月日／昭和26年1月



宇部港は、山口県の西南部に位置し、古くから背後の地域から産出される石炭、石灰石等の積出港として発展してきました。1951年には重要港湾に指定され、セメント・石炭などの鉱工業品を中心に取り扱う工業港として発展しました。現在では、石油化学、化学工業等の新たな臨海企業が立地し、瀬戸内海工業地帯の工業港として重要な役割を担っています。取扱貨物の特色は、石炭、原油、セメント、石油製品、石灰石等となっています。

港湾施設については、近年の入港船舶の大型化に対応した岸壁と一体となった航路・泊地の整備をおこなっています。平成15年には、総合静脈物流拠点(リサイクルポート)に指定され、リサイクルの拠点を目指しています。また平成23年には、徳山下松港とともに国際バルク戦略港湾に選定され、官民連携の深化等を通じ、今後のさらなる物流の効率化や民間企業の国内投資を呼び込むことで、我が国産業の国際競争力の更なる強化が期待されます。

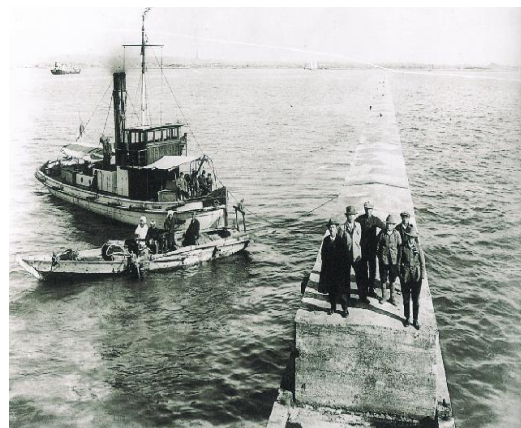
やまぐち「港」物語 - 宇部港 -

「有限の石炭を無限の富に。」渡辺祐策が創始した沖ノ山炭鉱を中心とする石炭工業とともに宇部港は発展していきました。明治時代の宇部港は、石炭輸送の窓口としての役割を担っていました。

明治から大正まで、宇部炭の主な配送は海上輸送でした。そのため、採炭技術を近代化させた宇部炭田にとって、より一層石炭を流通させるための輸送基盤を固める必要がありました。海岸線に並んだ大規模な炭鉱によって、宇部港は自ずと大型船舶を停泊させるための開発が進み、大正末期には沖ノ山炭鉱によって本格的な石炭埠頭と港湾建設が進められていきました。



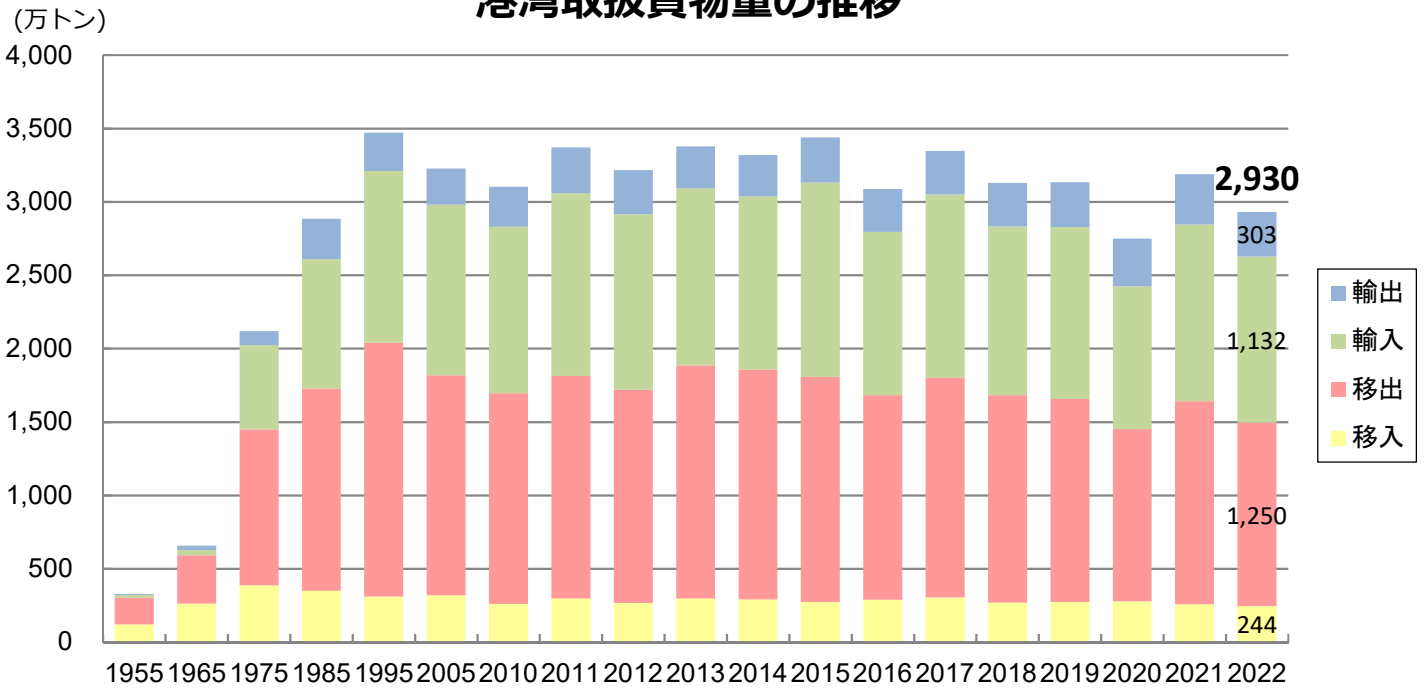
↑ 石炭積込棧橋と帆船(宇部市・大正15年頃)／明治から大正まで、石炭の輸送は主に帆船でおこなわれていました。



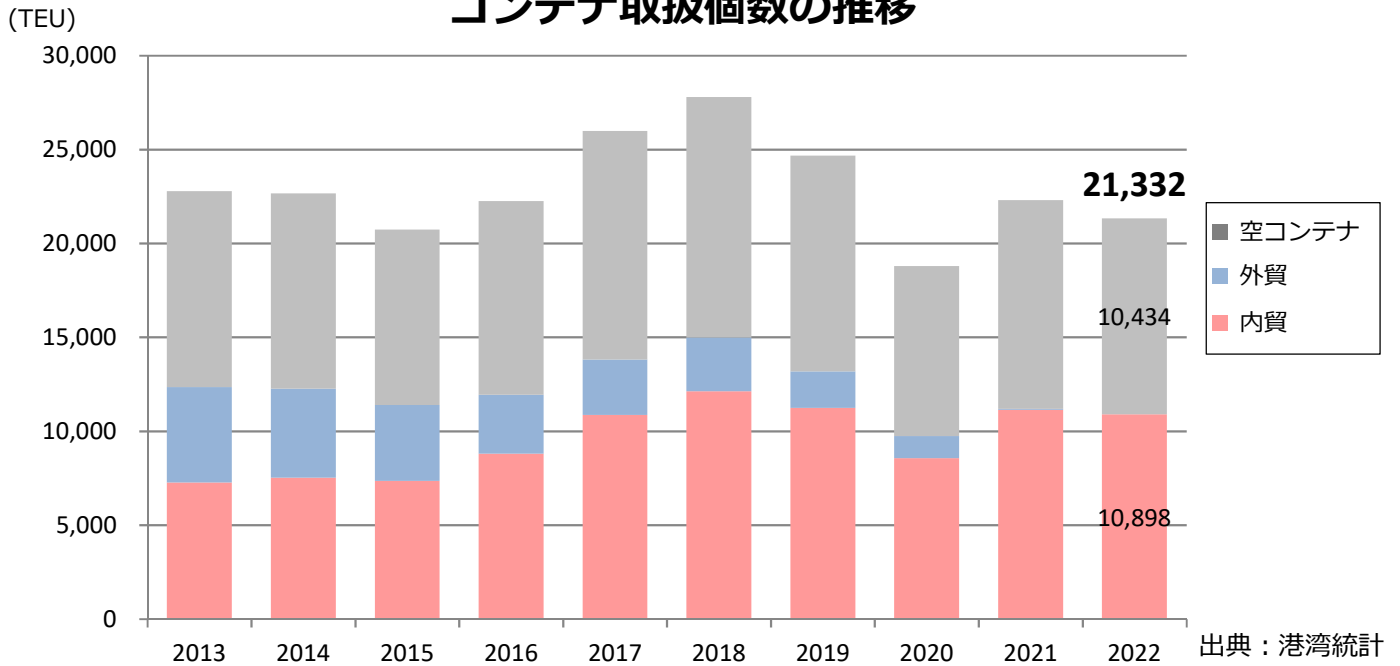
↑ 昭和8年7月31日に完工した沖ノ山南部防波堤(871.2m)／昭和4年4月に着工されたこの防波堤建設によって、宇部港は2,000トン級の鋼船の接岸が可能な大規模な港へと発展しました。

数字でみるみなと - 宇部港 -

港湾取扱貨物量の推移



コンテナ取扱個数の推移



外内出入別の主要品目取扱貨物量(2022年)

